



写真 11月2日3日 金沢大会 主会場 金沢星稜大学

題字・デザイン 吉田貞介氏

石川県教育工学研究会

2012.8.3

第83号

第38回全日本教育工学研究協議会全国大会(金沢大会) を開催にするにあたって

会長・金沢大会実行委員長 村井万寿夫

前会長の岡部昌樹先生のお導きにより、この秋に金沢を会場に標記の大会を開催する運びとなりました。大会テーマは「知識基盤社会をたくましく生きる子の育成—メディアを生かす“確かな授業設計”—」としています。

学校現場においては学習指導要領に示された教育の実現に向け、様々な取組が行われています。特に、小学校から高等学校においては、各教科の指導にあたって、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用し、学習活動の充実を図ることや児童生徒のICT活用による情報活用能力の育成を図ることの取組が行われています。また、教員のICT活用による分かりやすい授業の取組も行われています。

このような現状に鑑み、学校教育において、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化を始め社会のあらゆる領域での活動の基盤として、飛躍的に重要性を増す社会に自らたくましく生

きる子どもを育成すること。また、ICTを含めたメディアを効果的に活用することによって分かる授業を具現化し、子ども一人一人に確かな学力をつけることが必要であると考えて大会テーマを設定しました。

そして、そのための授業づくりを金沢の地から提案し、全国の先生方、教育委員会関係者はもちろんのこと、教育機器やコンテンツ等を開発・販売する企業の方々とも一緒に考えてみたいと思っています。

なお、金沢大会では「メディア」を教科書やノート、コンピュータ、電子黒板、教材提示装置、絵本、積木、ペープサート、教師、ゲストティチャーのように広く捉え、幼稚園から高等学校までの保育活動や学習指導を公開します。

教育は人の学習を援助する営みであり、メディアは一連の学習状況を具体化するものであるという捉え方をしております。

知識基盤社会をたくましく生きる子の育成

—メディアを生かす“確かな授業設計”—

大会副実行委員長 岡部昌樹

大会テーマのキーワードは、「知識基盤社会」「確かな授業設計」「メディアを生かす」です。

- ・「知識基盤社会」とはどのような社会なのでしょう。そこで求められる確かな学力とはどのような学力なのでしょう。
- ・「確かな授業設計」をするには、何が必要なのでしょうか。
- ・「メディアを生かす」とは、単に媒体を利用するという意味でしょうか。「金沢大会」では、メディアを再定義・再確認します。

OECD のキー・コンピテンシー

* DeSeCoプロジェクトの提案(2003)

グローバル化し、変化の激しい「知識基盤社会」を生きるのに必要な力、学校だけではなく人生を通じて発達させる力。

- 相互に作用的に道具を用いる力
 - ・言語・シンボル・テキスト ・知識・情報 ・技術
- 多様性のある集団において関係を構築する力
- 自体的に行動できる力

* DeSeCo (Definition and Selection of Competencies)

マスコミをはじめ、各種教育関係図書・各種答申において、「高度情報化社会」「ICT社会」「ユビキタス社会」という用語がよく使用されています。近年は「知識基盤社会」という用語もよく使われるようになってきました。そこでは、「相互に作用的に道具を用いる力」(OECD)、とりわけ『言語・シンボル・テキスト』を重要な学力と位置づけています。

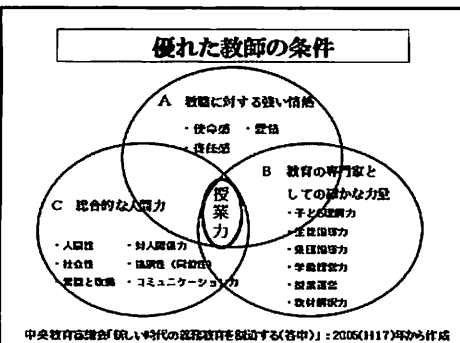
いったいどんな学力と解釈すればよいのでしょうか。PISA 型学力や新学習指導要領の学力と比べて見ましょう。

「生きる力」(学習指導要領がめざす力)

変化の激しいこれからの社会を生きるために必要な知・徳・体のバランスのとれた力。

- 確かな学力
 - ・基礎的に知識・技能の習得
 - ・それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力
 - ・学習に取り組む意欲
- 多様性のある集団において関係を構築する力
- 自律的に行動できる力

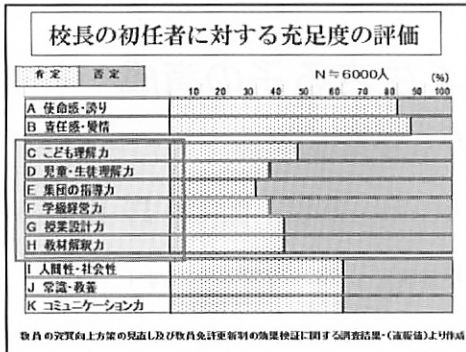
新学習指導要領もすでに完全実施の段階に入っています。キーワードは、「確かな学力」です。具体的な下位のキーワードは「習得・活用・問題解決力」です。OECD のキー・コンピテンシー（実践力）が提議しているキーワードと比べてみましょう。知識基盤社会を生き抜く力として、「音声・文字・映像という態様（モード）を異にする情報を駆使して、自らの文脈（主張）を作り出す力」を重視していると解釈できないのでしょうか。



中教審はこれまで、各種の部会を通して、望ましい・優れた教師像を示してきました。左記の答申においても、優れた教師の条件として、3領域に分けて、多様な能力・態度を挙げています。では、その中心は何でしょう。

それは、「授業力」ではないのでしょうか。授業力こそが教員に求められる中核概念といえるでしょう。

「授業力」を高めるには、「授業設計力」を高める必要があります。

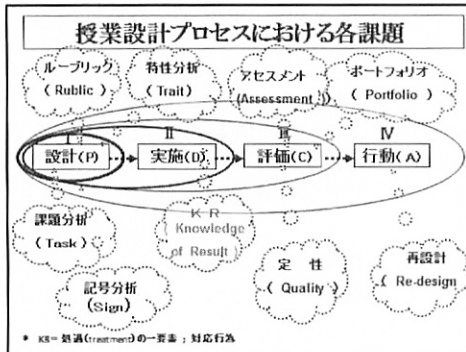


文部科学省が校長を対象に、初任の先生に対する充足度をアンケート調査した結果の速報値です。4段階で調査した結果を2分類してみました、枠で囲んだところが「確かな授業力」に直接的に関与している部分です。

確かに不十分であることを示しています。

しかし、それは期待値とも受け取れます。

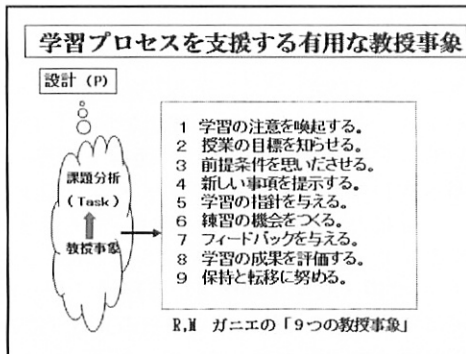
今後、研鑽を重ねて授業力を向上させることが如何に大切であるかを物語っています。



「授業設計」という場合、「狭義」と「広義」を使い分ける必要があります。

「広義の授業設計」は、多様な分野で広く取り入れられている「P・D・C・A (旧:P-D-S) サイクル」の再設計までを含みます。

教育現場においては、各ステップで多様な問題を抱えています。ちょっと思いつくものを列挙してみました。どれ一つを取り上げても大変重要な課題です。



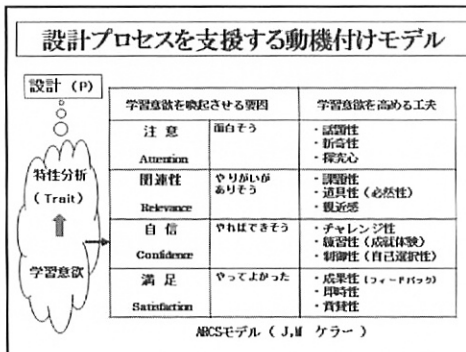
「狭義の授業設計」に焦点を当て、分析的・事例的に知見を取り上げてみましょう。

設計段階ではどのような「教授事象」が有用なのか、常に検討する必要があります。

左のスライドに記されている R, M ガニエが提唱した「9つの教授事象」は順序を表しているものではありません。

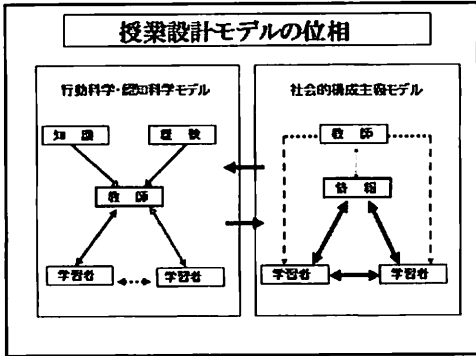
一度、指導（保育）案をこの視点から検討してみると、これまでとは異なった展開になることもきっとあると思います。

メディア活用についても、是非この視点から再検討することを推奨します。



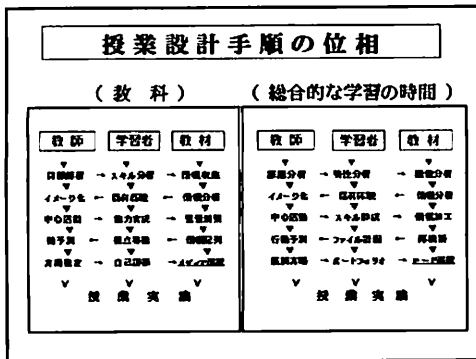
設計段階では、情意的側面も検討しなければなりません。R, M ガニエのもとで研究生活をともにした J, M ケラーは、「学習意欲」を喚起する要因を「4領域」に整理しています。

4領域の頭文字をとって「ARCS (アークス) モデル」とも呼ばれています。設計や評価、再設計段階でこのモデルを活用している学校も多数あります。



ところで、狭義・広義を問わず、授業設計が難しいといわれているのが、「総合的な学習の時間」です。スライドに敢えて、「教科」と「総合的な学習の時間」の授業設計を、かなり乱暴ですが対比的に表記してみました（プランソンモデルを参照）。二つのモデルを比べてみてください。

スライドの右のモデルは「情報社会の学習モデル」とも言われています。「総合的な学習の時間」の授業設計においては、通常右のモデルが使われています。

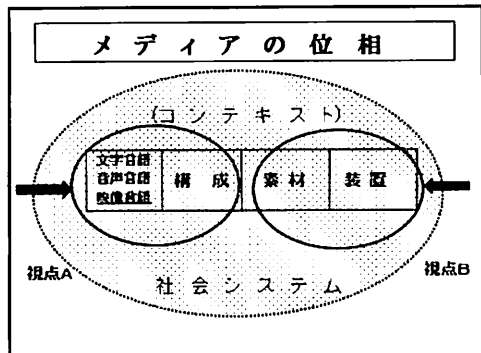


二つの授業づくりにどのような設計手順の違いがあるのか、経験豊かな先生方にカード法で整理していただきました。左は「教科」の場合の手順を整理したものです。右は別グループが「総合的な学習の時間」の授業設計手順をカード法で時系列化したものです。使われている単語も、手順も、内容もかなり違うことが読みとれます。メディアの捉え方も随分異なります。この二つを使い分けて授業を設計するのは至難の業です。

メディア活用の教育的意義

Literacy	Media	Sophistication (教養)		
		I	II	III
A	Sign (記号)	A-I 幼	A-II 小中	A-III 中高
B	Equipment (装置)	B-I 小中	B-II 小中	B-III 高
C	System (システム)	C-I 中	C-II 高	C-III 大

巻頭言で村井万寿夫大会実行委員長はメディアについて「金沢大会」の位置づけを紹介しました。校種を問わず、メディアを使わずに授業を行うことは不可能です。リテラシーの視点からは「教養」に、メディアの視点から「記号」に着目すれば「メディア活用力」が重要なポイントになります。また、リテラシーの視点から「機能」に、メディアの次元からは「装置」の側面に着目すれば、「情報活用能力」の育成がポイントになります。



狭義のメディアを「道具」として、また、教科の目的を達成する「手段」として授業設計・実施段階でどのように位置付けるかが重視されています。左右（スライド）のどちらの視点で考えるかによって位置づけも随分変わります。

デジタル化の進展に伴い、「デジタルコンテンツ」の活用も盛んになってきました。メディアの「機能的特性」や「記号特性」をどう解釈し、生かすについての授業（保育）研究もますます重要度を高めています。

中学校会場

■金沢市立鳴和中学校

〒920-0804 金沢市鳴和 2 丁目10-60
TEL 076-252-5228 FAX 076-252-5229
URL <http://www.kanazawa-city.ed.jp/naruwa-j/>

◆公開授業

- ・国語

■金沢市立北鳴中学校

〒920-0811 金沢市小坂町北95
TEL 076-251-7540 FAX 076-251-4318
URL <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/hokumei-j/>

◆公開授業

- ・英語
- ・音楽

■学校法人 稲置学園 星稜中学校

〒920-0811 金沢市小坂町南206
TEL 076-252-2237 FAX 076-252-9988
URL <http://www.seiryo-hs.jp/index-j.html>

◆公開授業

- ・理科
- ・英語

高等学校会場

■学校法人 稲置学園 星稜高等学校

〒920-0811 金沢市小坂町南206
TEL 076-252-2237 FAX 076-252-9988
URL <http://www.seiryo-hs.jp/index-s.html>

◆公開授業

- ・地理
- ・英語（2クラス）
- ・情報

※ 参観受付、公開授業・保育の時間帯は公開校により異なります。

※ 公開校・幼稚園に駐車場がありません。

公共交通機関または、無料専用バスをご利用ください。

やむを得ず、車でお越しになる場合は、臨時駐車場をご利用ください。

2) 基調講演 第1日目

日 時	第1日目 11月2日(金) (13:50～14:50)
場 所	金沢星稜大学 稲置記念館
講 師	文部科学省生涯学習政策局 参事官 新井 孝雄 氏
演 題	教育の情報化の推進について
内 容	<p>文部科学省は、21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む教育を実現するために、学校種、子どもたちの発達段階、教科等を考慮して、デジタル教科書・教材を活用した教育の効果・影響の検証、指導方法の開発等を行う「学びのイノベーション事業」を、平成23年度から総務省と連携して行っています。</p> <p>本基調講演では、文部科学省のこれまでの取組、平成24年度事業及び最新の教育情報施策についてご講演いただきます。</p>

3) シンポジウム I・II

シンポジウム I 第1日目

日 時	第1日目 11月2日(金) (15:00～16:00)
場 所	金沢星稜大学 稲置記念館
題 目 「授業設計の今日的課題」	
登壇予定者	吉崎 静夫 氏 (日本女子大学)
	南部 昌敏 氏 (上越教育大学)
	木原 俊行 氏 (大阪教育大学)
コーディネータ	岡部 昌樹 氏 (金沢星稜大学)
講評・指導顧問	吉田 貞介 氏 (金沢大学名誉教授)
内 容	大会テーマ解説のページをご参照下さい。

シンポジウムⅡ 第2日目

日 時	大会2日目 11月3日(土) (14:40～16:10)
場 所	金沢星稜大学 稲置記念館
題 目 「メディアを生かす確かな授業設計」	
登壇予定者	幼稚園・小学校・中学校・高等学校において、大会1日目に公開保育・公開授業を行った教員から、校種を代表して各1名。
コーディネータ	山西 潤一 氏 (富山大学・前日本教育工学協会 会長)
講評・指導顧問	水越 敏行 氏 (大阪大学名誉教授)
内 容	大会テーマに基づいて、教育現場から実践を報告していただく予定です。

4) 情報交換会 第1日目

日 時	第1日目 11月2日(金) (18:00～20:00)
場 所	ホテル金沢 〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号 TEL 076-223-1111
参 加 費	<p>一般参加費：5,000円 石川県教育工学研究会会員：3,000円</p> <p>Web ページでは情報交換会の参加費は5,000円となっておりますが、石川県教育工学研究会の会員の参加費は3,000円とさせていただきます。所定の申し込み (JTB 経由) で申し込まれた会員は、当日会場にて2,000円返却させていただきますので、受付でお受け取り下さい。</p> <p>申し込みは Web ページ (http://www.jaet2012.com/) からとなっておりますが、当日参加も可能です。ふるってご参加下さい。</p>

5) 分科会 第2日目

日 時	第2日目 11月3日(土)
	分科会1 9:40～10:40
	分科会2 11:00～12:00
場 所	金沢星稜大学 本館講義室
発表ジャンル *発表数80件	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業における ICT 活用 ② 情報モラル・セキュリティ ③ 学習コンテンツ等教材開発 ④ 校務の情報化 ⑤ ICT 推進体制の整備 ⑥ ICT 活用指導力向上のための教員研修 ⑦ eラーニング ⑧ カリキュラム開発 ⑨ 情報教育の実践と評価 ⑩ その他
スケジュール	分科会発表申込・発表概要提出期限 平成24年8月31日(金) 発表題目と200字の概要
	分科会発表論文原稿提出期限 平成24年9月15日(土) ワード形式、またはPDF形式で提出
問い合わせ及び 原稿送付先	第38回全日本教育工学研究協議会全国大会(金沢大会)実行委員会 広報部長・副実行委員長 清水 和久(金沢星稜大学人間科学部) e-mail: kshimizu@jaet2012.com

石川県から10件以上の発表を目標に発表者を募集しております。お近くの方に発表をおすすめ下さい。3月大会は、今年度はありません。

なお、今年度の北陸三県大会と兼ねておりますので、福井、富山からも5件以上の発表をお願いしています。

6) 課題別協議会 第2日目

日 時	大会2日目 11月3日(土) 13:00～14:30
場 所	金沢星稜大学 本館講義棟 各室

テ ー マ 1	「幼児・児童教育とメディア活用」
コーディネータ	加藤 隆弘 氏 (金沢大学)
内 容	幼稚園や小学校低学年における保育・教育活動におけるメディア活用について、具体例をもとに協議する。

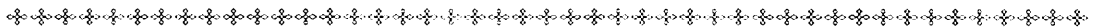
テ ー マ 2	「言語活動の促進とメディア活用」
コーディネータ	青山 由紀 氏 (筑波大学附属小学校)
内 容	小学校の国語科に焦点を当て、言語活動を促進するためのメディア活用の方途について協議する。

テ ー マ 3	「情報モラル教育の推進とメディア活用」
コーディネータ	岩崎 有朋 氏 (鳥取県岩美町立岩美中学校)
内 容	小、中学校における情報モラル教育の計画や実践について、小、中学校の先生の報告をもとに協議する。

テ ー マ 4	「国際交流学習の推進とメディア活用」
コーディネータ	清水 和久 氏 (金沢星稜大学)
内 容	ワークショップ形式 定員60名 外国との交流を通して成果共有物を作成する「アートマイルプロジェクト」について実践者が報告し、国際交流時の具体的なノウハウなどをワークショップ形式で体験する。 国際交流学習で身につけたい力や評価の方法などについても協議する。

テ　マ　5	「デジタル教科書の有効活用～社会科編～」
コーディネータ	稲垣 忠 氏（東北学院大学）
内　　容	定員60名
	小学校社会科におけるデジタル教科書を用いた授業づくりをテーマとする。現在、デジタル教科書には指導者用と開発中の児童生徒用があるが、本セッションでは、主に指導者用を取り上げる。教科書の改訂以降、教科書には豊富な図表や資料が掲載されるようになった。限られた時間の中で、資料の見せ方、選ばせ方を工夫する際、デジタル教科書は強力な助っ人となる。デジタル教科書ならではの教材研究・授業づくりに取り組む。
テ　マ　6	「情報端末活用の現状とこれから」
コーディネータ	中川 一史 氏（放送大学）
内　　容	パネルディスカッション形式　定員60名
	授業における情報端末（タブレット PC や iPad）の現状に迫るとともに、今後の方向性について論議する。
テ　マ　7	「基礎基本の定着とメディア活用」
コーディネータ	佐和 伸明 氏（柏市教育研究所）
内　　容	基礎基本の定着を目指した学習指導において電子黒板等を活用した実践例について報告し、協議する。
テ　マ　8	「ICT 環境整備計画案を作成しよう」
コーディネータ	東原 義訓 氏（信州大学）
内　　容	解説&ワークショップ形式　定員40名
	フューチャースクールや教育振興基本計画案などを例に、新たなICT 環境整備の方向性を示し、参加者のそれぞれの立場で、ICT 環境整備計画案を作成する。経験豊かな教育委員会・企業・有識者からのアドバイスを参考にグループワークを行う。
テ　マ　9	「管理職のための研修　－情報化時代の戦略的な学校経営－」
コーディネータ	野中 陽一 氏（横浜国立大学）
内　　容	ワークショップ形式　定員60名
	JAET が文部科学省委託事業で開発した「管理職のための戦略的ICT 研修カリキュラム」の、研修プログラムや教材について、グループワークを通して紹介する。このプログラムは、全国の教育委員会等で実施されている。

金沢大会に寄せて



知って、聞いて、参加して

副実行委員長・事業部長
中川 一史 (放送大学)

大会への参加の仕方はいろいろあります。
が、何よりも、アクティブに関わることが100倍勉強になり、楽しめる方法だと思います。
登壇されたり発表されたりする方はもとより、発表者に質問したり、課題研究で発言したり、異業種の方と名刺交換したり、と、さまざまな方法で積極的にアプローチくださると幸いです。
運営側も、精一杯準備をして皆様をお迎えいたします。秋の金沢も楽しんでお帰りになってください。

金沢大会を迎えるにあたって

副実行委員長・研究部長
加藤 隆弘 (金沢大学)

本大会の副題には「確かな授業設計」という言葉が入っています。いま、石川県内のいくつかの地域・学校に関わらせていただいている改めて感じるのが、この「授業設計」を見直し、各自が、あるいは地域全体がその力量を高めることの重要性・緊急性です。

- 1) これからの時代を生き抜く子どもに求められるであろう力を改めて洗い出し、実態を十分に分析した上で、授業の中で培える力については着実に身につけさせられるよう、それぞれの中にある学習の概念を再検討し、必要に応じて組み替え、実践に反映させる。
- 2) この数年間で急速に進む教員の世代交代のなかで、各地域・学校が、それぞれの実態に応じて授業設計～授業実践力の自主的自律的改善・向上に向けてのシステムの構築を行い、持続発展可能な状態に持ち込む。

本大会において、課題別協議会、公開授業・保育、分科会での討議などを通じて、私自身も県内・全国の先生方から多くのことを学ばせていただきたいと思います。

全国大会に思うこと

副実行委員長・広報部長
清水 和久 (金沢星稜大学)

これまでの出席してきた教育工学研究協議会の大会は、2004年第30回東京大会(八王子市)、2005年第31回長野大会、2006年第32回熊本大会、2007年第33回千葉大会(旭市)、2008年第34回三重大会、2009年第35回茨城大会、2010年第36回上越大会、そして昨年度の第37回丹波大会です。学校現場での自分の実践をまとめて1年に1度大会で問い、全国の先生方から刺激を受けてきました。2003年第29回の沖縄大会には発表する事がなくて参加しませんでした。今から思えばなにがしかの形で発表しておけばよかったと思っています。実践はまとめておかなければ、いつのまにか消えてしまいますが、発表のためにまとめることで足跡になります。そのような気持ちで今年は参加していただく先生方をサポートする副実行委員長ポストで、分科会の発表者のとりまとめの仕事をがんばりたいと思っています。

金沢大会への期待

副実行委員長・会計監査部長

西 田 政 人（金沢市立小坂小学校校長）

「教育工学」と名を耳にしたのは20年ほど前だっただろうか。いったい何を研究する学問なのかとの思いとともに、「工学」という名から受ける堅苦しい印象からやや疎遠に感じたことを覚えている。それでも、視聴覚機器を授業の中で効果的に活用する方法を学びたいとの思いから、実践研究に携わっていくことになった。今にして思えば、研究の場を通して多くの先生方と出会い多くのことを学ばせて頂き、徐々にではあるが自分の授業づくりにも味付けが為されていったように思う。

その研究会の全国大会が、今年度ここ金沢で開催されることとなり、その一助を担うことができることはこの上ない喜びである。全国の先生方から寄せられる実践報告や研究協議によって、これからの教育を担う若い先生方が育ち、そして、「教育工学」のめざす良い授業づくりへの道がさらに開かれていくことを期待したい。

情報化と情報格差を見据えた実践に

副実行委員長・公開授業部長

石川県視聴覚教育研究協議会会長

下 川 秀 一（金沢市立千坂小学校校長）

この度、全日本教育工学研究協議会全国大会金沢大会が開催されますことは、本県の教育界へのまたとない刺激となり、その活性化を推進してくれることと喜びに堪えません。

ICTによる情報化の進展は、めまぐるしいばかりです。しかし、スマートフォンが爆発的に広がる一方で、一般的な学校現場では、DVDすら十分に活用されているとは言い難い現実があります。先進の技術と普遍的技術のバランスをとりつつ、生きた学びが展開されるためにも、技術の可能性を試行すると共に、情報の処理・活用の視点で、新しい学びの姿を追求する手立てを、皆様と共に考えたいと思います。是非とも手厳しいご意見と多様な実践のご教授をお願いいたします。

全国大会に思うこと

石川県教育工学研究会理事

細 川 都司恵（金沢市立小坂小学校教頭）

全国大会で初めて実践を発表したのは、平成6年の金沢大会でした。それからもう18年も経つのかと思うと時の流れの速さを感じます。今回、再び金沢大会が開催されることとなり、全国からおいでた諸先生の前で、ひきつる顔を何とか抑えながら発表をしたのを久しぶりに思い出しました。夜のレセプションでは、第一線で活躍されている先生方とお話もでき、実践意欲がさらに喚起されたのを覚えております。また金沢大会の運営も石川県の会員みんなで取り組み、石川県教育工学研究会の組織力を感じました。

今回は、公開授業校の教頭として金沢大会に関わることとなり、これまでお世話になった石川県教育工学研究会に少しでも恩返しをしたいのと、次の世代の実践者を育てるために、授業公開に向けて学校の体制を整え、指導案作成の相談に乗るなど、授業者とともに準備を進めていきたいと考えております。本校は7名が授業を公開します。同時に情報教育の点からも関連の深い、図書館教育公開授業も並行して行いますので、公開授業は10教室となります。ぜひご来校よろしく願いいたします。

全国大会を迎えて

石川県教育工学研究会理事

濱田 美恵子（金沢市立四十万小学校教頭）

今年度、金沢にて、教育工学の全国大会を迎えるに当たり、前回は行われた金沢大会でのことが思い出されました。しかし、情報化社会の発展と共に、小学校では新学指導要領が施行され、また、学校での情報化ビジョンの公表と共に、授業での ICT を活用した実践研究が求められる等、教育の変化とともに、大会の内容も進展しています。

特に情報化ビジョンでは、教師が情報通信の技術を活かした学びとして、「一斉指導による学び」（一斉学習）「個々の能力や特性に応じた学び」（個別学習）「子どもたちが教え合い、学び合う学び」（協働学習）の推進を重点としています。その中でも、今回の全国大会において、協働学習としての学びの ICT の有効な活用についてのあり方について実践や、管理職として校務の情報化についての実践等、興味深い内容も多く、全国から参加していただきよりよい情報交換の場となることを期待しています。

全国大会に思うこと

石川県教育工学研究会事務局長

飯田 淳一（内灘町立清湖小学校）

個人的な話で恐縮ですが、数えてみたら全国大会にはこれまで5回参加し、金沢大会で6回目となります。参加する毎に全国のいろいろな実践を聞くことで自分自身の実践をふり返り、新しいことをやってみたい衝動にかられます。また石川県は他の県に比べてどうなのかがよくわかり他の教員や管理職の先生にも話せることも参加してよかった点だと思います。

長野、熊本、丹波大会では発表させていただきましたが、発表することで自分の学びになりつつ、最先端の実践も聞くことができるというのはとてもお得な仕組みだなと思います。ちなみに沖縄大会は県外出張、八王子大会は内地留学中の自腹参加でそれはそれでたいへんでした。

今回、主催者側として毎月の実行委員会に出させてもらっていますが、大会を主催するというのは、参加する側からはわからないたくさんの仕事があり、とても大変なことなのだと改めて感じています。大会が大成功で終わり、来てよかったと参加者に思ってもらえるよう、微力ながら力を尽くしたいと思います。

会員のみなさまへ

参加の申し込みは、下記金沢大会ホームページの参加申込のフォームからお願いします。

一般参加は3,000円、オブザーバー参加は1,000円となっていますが、石川県教育工学研究会会員の参加費は1,000円で、大会要項と論文CD-ROMがついてきます。

WEB上の表記「オブザーバー参加の場合、大会要項および論文CD-ROMはついていません。大会要項および論文CD-ROMが必要な方は一般参加で申込下さい。」は県内教育関係者向けの案内です。会員のみなさまは、参加フォームはオブザーバー参加で申し込んでいただき、当日会場の受付で大会要項とCD-ROMをお受け取りください。たいへんお得になっていますので、ぜひ参加をお願いします。

大会ホームページ <http://www.jaet2012.com/>

■金沢市立鳴和中学校（石川県金沢市鳴和2丁目10番60号）

●公開対象 <国語科>

本年度は、特にこんな点に力を入れて取り組んでいきます。

◎確かな学力の育成《わかるからできる（活用）へ → 確かな学力》

- ・授業の約束や、各教科における学習の方法等について、指導を徹底します。
- ・全教師が、学習への興味関心を高める課題の提示、授業の要点や流れがわかる板書、教具・教材の工夫、生徒の思考や発表の場の工夫など、わかりやすい授業の工夫に取り組みます。
- ・習熟度別少人数学習（2・3年数学）をはじめとして、各教科において個々の生徒の理解状況に応じた学習指導の充実を図ります。
- ・総合的な学習の時間において、校外の専門家による指導の機会を増やし、探究的な学習の充実を図ります。
- ・授業で「分かった」ことを、「できるようになった」ことにするために、家庭と連携し、家庭での学習習慣(特に、学校での学習内容の復習)の定着と充実を図ります。

（ホームページ・トップ・学校紹介（学校日より<平成24年度No.3>）より抜粋）

■金沢市立北鳴中学校（石川県金沢市小坂町北95番地）

●公開対象 <英語科 音楽科>

【学校研究主題】

目標を持ち、意欲的に学ぶ生徒の育成 - 授業の工夫・改善と家庭学習の充実をめざして -

<研究の重点>

○積極的な授業改善による学力向上

- ・授業評価を受けた改善策の具体化とその検証（継続）
- ・生徒の意欲や関心を引き出す学習課題の設定
- ・生徒が認め合い、高め合う学習指導の工夫（今年度の重点事項）

○生徒の目標や実態に応じた家庭学習の充実

- ・家庭学習のための継続的なガイダンスの推進
- ・学年の実態に応じた家庭学習の調整と提示
- ・学習課題克服のための質問教室や補充教室の充実（今年度の重点事項）

（学校管理運営計画 P82より抜粋）

■学校法人稲置学園星稜中学校（石川県金沢市小坂町南206）

●公開対象 <理科 英語科>

【教育方針】

「知育」、「徳育」、「体育」のいずれにも偏向しないバランスのとれた教育活動をする。…中略…良き伝統は継承し、さらに深化させて新しい星稜を目指す。

<知>知識・理論・技能の錬磨につとめ、学力の充実をはかる。

<徳>情緒、人間性の醸成。一人一人を大切に心のふれあう学校、豊かな教養の向上を目指す。

<体>体育・スポーツを通じ、心身の健全な育成につとめる。

（ホームページ・トップ・ヘッド<学校紹介>・<教育方針>より抜粋）

■学校法人稲置学園星稜高等学校（石川県金沢市小坂町南206）

●公開対象 <地理 英語科 情報科>

【教育方針】

「知育」、「徳育」、「体育」のいずれにも偏向しないバランスのとれた教育活動をする。…中略…良き伝統は継承し、さらに深化させて新しい星稜を目指す。

<知>知識・理論・技能の錬磨につとめ、学力の充実をはかる。

<徳>情緒、人間性の醸成。一人一人を大切に心のふれあう学校、豊かな教養の向上を目指す。

<体>体育・スポーツを通じ、心身の健全な育成につとめる。

（ホームページ・トップ・ヘッド<学校紹介>・<教育方針>より抜粋）

金沢支部の活動 大学生とのいっそうのコラボを目指して

金沢星稜大学 清水和久

1 はじめに

金沢支部では活動の中心になっている国際交流学習を本年度も行っていく。今年度は、金沢星稜大学のこども学科の清水ゼミの3年生とのコラボレーションでの研究会活動を行う予定である。

2 大学生とのコラボレーション

昨年度は、1年生を中心としたメンバーであったが、今年は3年生を中心とするメンバーで、より機動力がアップした。



図1 ワークショップを行う星稜大学のメンバー

彼らは、小学校に出向き、国際交流学習の導入の授業「もし世界が100人の村だったら」を行う。この導入授業はワークショップとして行い、小学生が「100人村」の住人となり、実際に動いて、自分たちの話す言葉や置かれている状態を知るものである。得に英語を話す人口の割合や、富の偏在を知ることによって世界への関心を持たせようとするものである。

また、学生自体も、国際交流学習の国際共同壁面作成アートマイルプロジェクトを体験する予定で、今年度はスリランカの短期大学生との交流が予定されている。教員を志望している大学生に国際交流学習のサポートに参加してもらえるのはとても有意義であり、彼らにとっても現場の総合的な学習への参加できることはメリットになる。

3 支部の活動の内容

月1回程度研究会を持ち、互いの国際交流プロジェクトの進行具合を報告すると共に、実際の国際交流の前にその練習として国内の児童同士の交流も行う。

<国際交流学習の4段階>

第1段階（9月10日）自己紹介や学校紹介

第2段階（10月11日）テーマ構図

第3段階（12月）具体物の作成。

第4段階（2月3日）鑑賞と振り返り。

この4つの段階に合わせて研究会の活動も進めていく予定である。特に1、2段階目が重要であり、交流校の教師同士の信頼関係ができていくとこれ以降の交流がスムーズになる。

<県内からのプロジェクトの参加校>

8校13クラスが参加予定である。

金沢市立花園小6年	1クラス
金沢市立四十万小6年	2クラス
金沢市立額小学校6年	3クラス
金沢市立泉野小学校4年	3クラス合同
金沢市浅野川小学校1年	2クラス
七尾市立小丸山小学校3年	2クラス
志賀町立富来小学校4年	2クラス合同
金沢星稜大学	1クラス

4 7月までの活動

○第1回学習会5月14日(月)

昨年度のアートマイルの様子を経験者に話してもらい、今年度の注意点を確認した。

○第2回目学習会6月4日(月)

大学生との顔合わせを行い、担当校を決定。各校の総合の実施状況の報告。

○第3回目学習会7月2日(月)

外国の交流相手の決定。ヨルダン、オーストラリア、インド、台湾、アメリカ、カナダ、スリランカ、メキシコの8カ国となった。

○8月以降の予定

9月から本格的な交流活動が始まる。8月中に、ペアの先生同士のコミュニケーションを確立させることが急務となる。

白山支部活動報告

白山市立明光小学校 正来 洋

1 月例学習会を開催

2012年度の白山支部は本年度も9名のメンバーにて4月にスタートです。1997年度に活動を始めて16年目を迎えました。メンバーも年を追うごとに少しずつ入れ替わりはありますが、現在のメンバーはいずれも5年以上ともに学習を続けている仲間ということになります。初期には2か月に一度、近年は月に一度の例会をメンバーの所属校持ち回りで開催し、さらにメーリングリスト上でも情報交換を進めてきた白山支部です。

2 国語を中心に

これまでの月例学習会では、実践報告や実践相談が持ち込まれ、時には夜10時近くまで討議が行われることもあります。

ここ数年の傾向として、「国語」が大きなテーマとなっています。今日的な課題である「習得と活用」などを巡る話題はもちろん、どのような授業設計をすべきか、それらの授業を成立させるための教師の関与のあり方（指示・発問・説明）といった部分まで、突っ込んだ議論になることもしばしばです。

最近のトピックとして学習会に取り上げられたものとして次のようなものがありました。

- ・実物投影機、プロジェクター、電子黒板など ICT 機器の特性と、授業利用場面について
- ・習得と活用を大切に算数授業の展開についての検討
- ・学校 Web サイトの効果的で継続的な活用のあり方と校内体制について

3 Ichigo 読書

初期によく行っていた「アウトプットするためにインプットを大切に」ということで「Ichigo 読書」と称する読書会を復活させています。

日頃購入はするがなかなか読めないでいる教

育書・ビジネス書を参加メンバーが持ち寄ります。ストップウォッチで計時し、15分で読書、2分で概要をまとめ、各自3分間のインプレッション発表、それに対するメンバー間のディスカッションを3分…という形で進めます。

この読書セッションのメリットは、毎回たくさんの書籍が紹介されることです。

しかしそれ以上メリットは、このセッションが「3分で書評する」ことを意識して、本どころが「売り」なのか、筆者の意図はどこにあり、それに対してどのような印象や意見を持ったかを端的に「まとめて・発表する」ことを参加者に求める点にあります。

内容を網羅的・羅列的に紹介するだけでは冗長となって聞き手には伝わらないということに気づきます。発表内容の切り取り方や意見の絡ませ方に意識的になっていくという部分に、参加メンバーの学びがありました。これは日々の教師としての話の焦点化という点でもよい訓練であると感じます。

最近取り上げられる資料の傾向として、教育雑誌の記事を持ち寄り、学校が直面する課題について焦点化した討議を行うことも多くなって来ました。メンバーも勤務校において管理職やミドルリーダーの立場にある者が増えてきており、授業設計だけでなく、学校運営上の様々な課題を抱えてきていることの現れであるのかもしれない。

おわりに

年を追うごとにメンバーの異動、多忙化など、学習会のスケジュール調整が難しくなっています。しかし、いったん集まれば、相談や新たな情報提供、学習が熱心に進みます。

これからも支部活動として、息長く学習会を続けていきたいと考えています。

新規でも、上書きでも、複製でもない



の選択。

開く(O)
エキスプローラ(E)
検索(F)
新規作成(N)
上書き保存(S)
削除(D)
名前の変更(M)
再考
プロパティ(R)

「再考」

新規 Finder ウィンドウ	⌘N
新規スマートフォルダ	⇧⌘N
新規ディスク作成フォルダ	
このアプリケーションで開く	▶
プリント	
ウィンドウを閉じる	⌘W
情報を見る	⌘I
再考	
複製	⌘D
エイリアスを作る	⌘L
よく使う項目に追加	⌘T
ゴミ箱に入れる	⌘G
名前で検索...	⌘F
ラベル:	
×	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

つくろう！ニホンの教育フューチャー！

D-project 2012 in 金沢

テーマ：「再考」制作活動を取り入れた授業デザイン

オープニングトーク 10:00～

中川 一史 (D-project 会長、放送大学教授)

実践発表 10:20～

国語科：佐藤 幸江 (横浜市立高田小学校 主幹教諭)

社会科：布川かほる (中能登町立鳥屋小学校 教諭)

国語科：西田 素子 (金沢市立犀川小学校 教諭)

国語科：嶋 麻衣子 (金沢市立小坂小学校 教諭)

社会科：福田 晃 (金沢市立十一屋小学校 教諭)

理科：竹田 嘉徳 (金沢市立田上小学校 教諭)

司会：八崎 和美 (七尾市立小丸山小学校 校長)

細川都司恵 (金沢市立小坂小学校 教頭)

ワークショップ 13:00～

iPad授業活用

プレゼンカプチャアップ

リーフレット制作

てい

鼎談

本岡 朋 (和歌山市立藤戸台小学校 教諭)

岩崎 有朋 (鳥取県岩美町立岩美中学校 教諭)

佐藤 幸江 (横浜市立高田小学校 主幹教諭)

15:15～

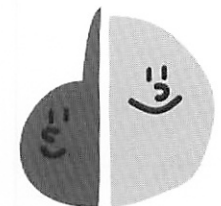
中川 一史

村井万寿夫 (石川県教育工学研究会会長、金沢星稜大学教授)

小林 祐紀 (D-project金沢実行委員長、金沢市立小坂小学校 教諭)

エンディングトーク 16:15～

清水 和久 (石川県教育工学研究会副会長、金沢星稜大学准教授)



D-Project

www.d-project.jp

2012年8月4日(土) 10:00～16:30

会場：金沢星稜大学

主催：D-project 金沢実行委員会

共催：石川県教育工学研究会、金沢星稜大学総合研究所、学習ソフトウェア情報研究センター

当日、受付にて資料代500円をいただきます。

参加申し込み・詳細は <http://www.d-project2.jp/hokuriku/2012/>

石川県教育工学研究会 会計報告

平成 23 年度決算

収 入

科 目	本年度予算	本年度決算	備 考
会 員 負 担 金	456,000	456,000	4,000×114人
会 員 補 助 金	400,000	400,000	
費 助 会 費	30,000	30,000	
繰 越 収 入	0	0	
雑 収	0	0	
合 計	886,000	886,000	

支 出

科 目	本年度予算	本年度決算	備 考	
補助対象経費	謝 金	60,000	60,000	講演会謝金（講師代）
	旅 費	200,000	210,000	全国大会（丹波）6名 富山大会（2名）
	消 耗 品	45,000	34,000	発送用封筒、DVD-R、タックシール
	印 刷 費	300,000	300,000	会報81、82号、研究紀要
	図 書 購 入 費	100,000	100,000	支部活動費、研究用図書、資料代
	事 務 連 絡 費	0	0	
	通 信 運 搬 費	85,000	85,000	会報、研究紀要郵送費
	借 上 費	10,000	11,000	
	計	800,000	800,000	
	補助対象外経費	賃 金	40,000	40,000
加 盟 分 担 金		20,000	20,000	日本教育工学協会会費、送金手数料
諸 会 合 費		20,000	20,000	諸会合費
サ ー バ ー 維 持 費		6,000	6,000	
計	86,000	86,000		
合 計	886,000	886,000		

平成 24 年度予算

収 入

科 目	予 算	備 考
会 員 負 担 金	432,000	4,000×108人
会 員 補 助 金	400,000	
費 助 会 費	60,000	3 社
繰 越 収 入	0	
雑 収	120	
合 計	892,120	

支 出

科 目	予 算	備 考	
補助対象経費	謝 金	80,000	講演会謝金（講師代）
	旅 費	30,000	理事派遣
	消 耗 品	65,000	発送用封筒、DVD-R、タックシール
	印 刷 費	300,000	会報83、84号、研究紀要
	図 書 購 入 費	200,000	支部活動費、研究用図書、資料代
	事 務 連 絡 費	0	
	通 信 運 搬 費	91,000	会報、研究紀要郵送費
	借 上 費	50,000	
	計	816,000	
	補助対象外経費	賃 金	40,000
加 盟 分 担 金		20,120	日本教育工学協会会費、送金手数料
諸 会 合 費		10,000	諸会合費
サ ー バ ー 維 持 費		6,000	
計	76,120		
合 計	892,120		

平成24年度 石川県教育工学研究会役員名簿

(順不同 敬称略)

【会 長】 村井万寿夫 (金沢星稜大)

【副 会 長】 加藤 隆弘 (金沢大) 清水 和久 (金沢星稜大) 下川 秀一 (千坂小)

【常 任 理 事】 荒谷 実 (作見小) 宇都宮 博 (小松工業) 葛蒲田英夫 (東明小)
 中條 敏江 (蕪城小) 西田 政人 (小坂小) 山本 洋 (鶴ヶ丘小)
 八崎 和美 (小丸山小) 坂井 善久 (田鶴浜小) 荒巻 雅博 (中島小)

【理 事】 〔◎は常任理事〕

(加賀地区) 向出 章 (小松教育事務所)

(金沢地区) 畠 一馬 (ろう) 細川都司恵 (小坂小) 濱田美恵子 (四十万小)

渡辺 直人 (松陽小) 山下 雅美 (内灘町教委)

(能登地区) 荒巻 幸子 (富来小) 山下 匡 (みさき小)

【運 営 委 員】 〔○は研究部〕

(加賀地区) 畠山 久雄 (小松瀬領特別支援)

(金 沢 市) 奥野 豊夫 (米丸小) 中島 満子 (木曳野小) ○青江 弘義 (西荒屋小)

金岡 弘宣 (金大附小) ○小林 祐紀 (小坂小) ○角納 裕信 (木曳野小)

○中野 淳子 (野々市市教委) ○西野 聡子 (浅野川小) ○福田 晃 (十一屋小)

濱坂 昌明 (泉中) 升田 敦士 (高岡中) 壺田 豪利 (金大附高)

(能登地区) ○岩崎 京子 (小丸山小) 笹川 修栄 (越路小) 松本 豊 (高浜小)

○布川かほる (鳥屋小) 板岡 有子 (邑知中)

【事 務 局 長】 ○飯田 淳一 (組織担当兼務 清湖小)

【事 務 局 次 長】 ○坂上 則子 (企画担当：四十万小) ○海道 朋美 (会報担当：緑小)

【研 究 部 長】 ○細川都司恵 (小坂小)

【研 究 副 部 長】 小林 祐紀 (小坂小)

【会 計】 清水 和久 (金沢星稜大学)

【会 計 監 査】 濱田美恵子 (四十万小) 奥野 豊夫 (米丸小)

【日本教育工学協会役員】 (研究会理事) 村井万寿夫 (名誉理事) 吉田 貞介

【名 誉 会 員】 西出 隆 中村 孝雄 紙谷 威 山本 昌猷 清丸 亮一 谷内 敏夫
 藤井 昭久 北本 正明 押野 市男 大森 俊彦 南 千之 内田 正明
 三田村英明

【顧 問】 柳田 勇 山崎 豊 吉田 貞介 岡部 昌樹

【指 導 委 員】 太田 雅夫 小笠原喜康 金子 勲榮 黒上 晴夫 黒田 卓 堀田 龍也
 水越 敏行 山西 潤一 吉崎 静夫 赤堀 侃司 鈴木 克明 清水 康敬
 堀口 秀嗣 中川 一史 稲垣 忠

平成24年度 石川県教育工学研究会事業計画

事 業	期 日	概 要
1 総 会 理 事 会	6月2日(土) 25年3月	平成24年度総会（金沢星稜大学） ・平成23年度事業報告・決算報告 ・平成24年度事業計画・予算案 平成24年度理事会（書面にて開催） ・平成24年度事業報告・決算中間報告 ・平成25年度事業計画・予算案 ・平成25年度役員案
2 研究事業	4月11日(木) 5月9日(木) 6月2日(土) 6月13日(木) 7月17日(火) 8月4日(土) 8月8日(木) 9月12日(木) 10月10日(木) 10月24日(木) 11月2、3日 (金、土) 25年1月	○全日本教育工学研究協議会全国大会（金沢大会）に向けての実行委員会 ○実行委員会 ○講演会（講師 金沢星稜大学 岡部昌樹先生） 「JAET2012・金沢大会テーマ『知識基盤社会をたくましく生きる子の育成－メディアを生かす“確かな授業設計”－』の意義」 ○実行委員会 ○実行委員会 ○夏の研究会（デジタル表現研究会と共催） ○実行委員会 ○学習会、実行委員会 ○実行委員会 ○実行委員会 ○第38回全日本教育工学研究協議会全国大会 金沢大会 主会場：稲置記念館・金沢星稜大学本館 ○北陸3県教育工学研究会・石川県教育工学研究大会 10名発表予定 ○冬の研究会
3 刊行事業	4月、6月、8月、 10月、12月、3月 7月、3月 3月	○研究会ニュース 年間を通じ当会 Web サイト http://i-kougaku.undo.jp/ にてニュースを掲載しています。 ○会報（83号、84号、B5版、24頁、200部） ○第38号研究紀要（A4版、60頁、200部）

会費納入についてのお願い

研究会の円滑な運営のため、会費納入をお願いします。 年額 4,000円

振込先 北國銀行 高尾支店 普通 110292

編 集 後 記

第38回全日本教育工学研究協議会 金沢大会が近づいてきました。大会テーマ「知識基盤社会をたくましく生きる子の育成－メディアを生かす“確かな授業設計”－」について、理論的、実践的に学び合える機会に期待が膨らみます。

お忙しい中、執筆頂いた先生方、本当にありがとうございました。
【会報担当】

平成24年8月3日発行

発行者 石川県教育工学研究会
代表者 村井 万寿夫
事務局 〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属教育実践支援センター
TEL 264-5588 FAX 264-5589
印刷所 ㈱小林太一印刷所
TEL 238-5454 FAX 238-5453